

MOLE HOLE LETTER B

(13)

無常といふ事 Part II

『無常といふ事』といふ批評文は、いふまでもなく、小林秀雄の著した、昭和十七年七月の『文學界』に発表した作品です。

しかし、何しろ「ぼくはその小林秀雄ってのを、一度も読んだことがないんです」〔註1〕と言つてゐる作家の読者が小林秀雄の、それも小品といひながら、最も著名な批評の一つを取り上げて、安部公房の言語作品形態の様式に従ひ、その末尾の文を引用して〔註2〕、第二部を書いてみるといふことに、何がしかの意味があるかも知れません。

〔註1〕

『共同幻想を否定する文学』（1972年1月1日）全集第23巻、293ページ上段）の古林尚との対談による

〔註2〕

これは安部公房の全作品を貫く様式で、私はこれを「結末継承」と名づけました。これによつて安部公房は生涯の全作品を存在と化した。詳細は『デンドロカリア論』（もぐら通信第53号及び第54号）を御読み下さい。

『無常といふ事』の結末は、次のやうに終はつてゐる。

「この世は無常とは決して仏説といふ様なものではあるまい。それは何時如何なる時代でも、人間の置かれる一種の動物的状态である。現代人には、鎌倉時代の何処かのなま女房ほどにも、無常といふ事がわかつてゐない。常なるものを見失つたからである。」

私が此の作品を想ひ出して第二部を書うと思つたのは、世に流行のsustainability・サステイナビリティといふ用語を持続可能性などといふ、何を何のために維持することを可能にするのかよくわからぬ訳語にして世に流布せしめる輩がゐるので（流布する原因は常にマスメディアといふ媒体のせいである）、目には目を、歯には歯を、フランクフルト学派の批判理論には逆批判理論を、そしてどうも調べるとこれは本来システム用語であるものを生物に転用して、環境保護運動といふEAWAC白人種の偽善に満ちた地球的な規模の金儲けのためのプロパガンダ用語だと知るに至つたので、ここに持続可能性には無常といふことを持つて来て、逆持続不可能性を主張しようと思ひついたので。この思ひつきも、何故さうできたかといふと、ドナルド・キーンさんの著作集『第一巻 日本の文學』の「古典の愉しみ」の章の「第一章 日本の美学」に、日本人の美学を構成する私たちの美感が

四つ挙げられて説明されてある中の一つに「無常」といふ美感項目があり、それをキーンさんはPerishability・ペリッシュャビリティといふ英語に訳してあるのを読んだからです。

果たして此のperishabilityで、私たちのいふ無常がよく英語になるかといへば、ならないだらうと思ふのは、無常といふことを私たちは、小林秀雄のいふやうに実は常なる状態と考へてゐるので儚（はかな）いといふ感覚に動かぬ美を感じてゐるのであるし、美をまた桜の花の散開に観るのだといふ私たちの美学が写らないとを感じるからです。翻訳は難しい。キーンさんといふアメリカ人は本当によく日本語の文字を深く読む方で、その文章を読みながら驚きの連続を日本人として経験するわけですが、ですから相当に熟慮した上での訳語の選択でありませうから、これが間違いであるといふよりも、やはり日本語で漢語を借りて私たちのいふ無常はperishといふ動詞では表すことができないのではないか、つまり、この語だと本当に滅亡といふ感じがして其の先がもはや時間の中にはないといふ、それこそEAWACキリスト教徒の宗教観ならば、終末思想といふことになる美学といふことにならないかといふ心配をするのです。さういふ誤解が英語でなされはしないかといふ心配です。試しに此処で、Webster Online様にお伺ひを立てますと次のやうな御宣託である。

Definition of perish

intransitive verb

1

: to become destroyed or ruined : cease to exist
recollection of a past already long since perished

— Philip Sherrard

guard against your mistakes or your attempts (perish the thought) to cheat

— C. B. Davis

2

chiefly British : DETERIORATE, SPOIL

transitive verb

1

chiefly British : to cause to die : DESTROY

2

: WEAKEN, BENUMB

Synonyms & Antonyms for perish

Synonyms

check out, conk (out), croak [slang], decease, demise, depart, die, drop, end, exit, expire, fall, flatline, go, kick in [slang], kick off [slang], part, pass (on), pass away, peg out [chiefly British], pop off, step out, succumb

Antonyms

breathe, live

一々訳しませんが、ざっと打ち見たところ、やはり私の第一感は正しく、これでは本当に死んでしまひ、exist（存在）しないで滅んでしまつて後がないといふ定義になつてゐ

る。私たちの美は隙間に余白に白地に無地に、何もない所即ち無に存在してゐるので、全く此の超越論の持つ縄文形而上学に基づく無常といふ概念の内包する儚さといふ外延の意味・meaningがうまく伝はらない。

多分これは英語が日本語に対して持つ限界なのでせう。といひますのは、キーンさんが三島由紀夫の死に関する何かのインタビューの中の動画で、死の前に手紙をもらつて其処に虚無とふ文字をみて、これをニヒリズムだと英語のnihilismを口にした上で、恐ろしいことだと発言してゐるのをみて、この時も、ああ、キーンさんはこれだけ日本人以上に日本語が理解できてゐるのに、やつぱり死といふ言葉に接して、それがたとへ日本語であるにせよ、頭の中で無意識にでもdeathに翻訳し、また虚無をnihilと翻訳して、本当に何もない無に心底からの恐怖を覚えたのだなと、私はさう知つたからです。これは私たちの無ではない。三島由紀夫の手紙には遺作『豊饒の海』とふ同じ名前が月の凹のクレーターにさう名づけられてゐて、私の作品はこれだと書いてあつたと記憶してゐます。だから月の表面のクレーターの凹にこそ海の豊饒があると三島由紀夫は書いてゐるのです。それ故に虚無と此の凹を三島由紀夫は呼んでゐる手紙でした。しかし、恐怖といふ感情は人間の感ずる根源的な感情の一つですから、キーンさんは感情抑え難かつた。思はずそれが表に出た。ですから、それは真率な心情の現れであり、嘘はないのです。

無常といひ、儚さといひ、豊穰の海の凹の、地球上の火山ならばカルデラの形象である凹は、繰り返し『縄文紀元論』で論証して参りました通り、私たちの縄文哲学の本質、私たちの習合能力の根底にある変形のための形而上学的原理の自然に存在する形象そのものです。

それは、川端康成のノーベル文学賞受賞講演『美しい日本の私』の中で日本人の無に関して述べてゐて、至る所に此の私たちの哲学的美学を美しい日本語の引用で幾つも論証してくれておりますが、キーンさんにしてかうであれば、果たして当時当日の会場の人々に理解されてゐたかどうか。この講演の最後に川端康成は次のやうに述べて講演を終へてゐます。明恵上人が西行法師の歌について語つた事柄です。結論をいへば、賀茂真淵の御弟子さんにしたためた手紙にある間色の原理について明恵上人もまた、西行の和歌を題材にして述べてゐるのです。

「しかれども、虚空は本明らかなるものにあらず。また、色どれるにもあらず。我またこの虚空の如くなる心の上において、種々の風情を色どるといへども更に蹤跡なし。この歌も是れ如来の真の形体なり。（弟子喜海の『明恵伝』より）」

続けて曰く、

「日本、あるひは東洋の「虚空」、無はここにも言ひあてられてゐます。私の作品を虚無といふ評家がありますが、西洋流のニヒリズムといふ言葉はあてはまりません。心の根本

がちがふと思つてゐます。道元の四季の歌も「本来の面目」と題されてをりますが、四季の美を歌ひながら、実は禅に通じたものでせう。」

明恵上人のいふ「種々の風情を色どるといへども更に蹤跡なし。この歌も是れ如来の眞の形体なり。」は、道元禪師ならば、悟りの跡は残らないといつたことにあたります。

サステイナビリティといふカタカナで表記されてゐる原語の意味は、キリスト教の終末思想の人類滅亡を前提にして、だからさうはならないやうに今から予防的な準備をしておきませうといふ理屈ですが、私はかういふEAWAC白人種の口吻を耳にするたびに連想するのは、株式市場に上場するヴェンチャー・ビジネス企業の価値を評価するのに、未来の2年後の価値を計算して逆算して現在のこれから上場する今現在の企業価値を計算して投資家に示めすといふやり方です。これには、私が見て知つた方程式は二種類あつて、如何にもそれらしい立派な名前がついてゐました。

しかし、別に日本人ならずとも常識または良識、さうデカルトが『方法叙説』の開巻第一行に書いた良識（ポン・サンス）を一寸働かせてみたら、これは一種の詐欺ではないかと疑ふことは容易です。何故ならば、人間には明日のことは知ることができないとふことは常識だからです。ですから欲念あらば、これを狙つて詐欺師が活躍することになる。暗躍といふべきか。私は茅場町の大きな証券会社の子会社に職を奉じてゐた時に毎日毎日時間があれば、一年間、ヤフー・ファイナンスの提供する東京市場の日経平均株価の次の15分後の株の値の上下を予測しようとしてしましたが、全くできなかつた。其処からは正しい判断のための何の論理的根拠も抽出して一般化できなかつた。時間の中では相場には確たる規則性がない、即ち相場とは時間の中では混沌なのです。何故かうかといへば、私は株価と株価の隙間を読まなかつたし、読めなかつたからです。これが一体縄文哲学で論理的な根拠をもつて読めるといふ事実については『Mole Hole Letter (69) : 超越論 II (第十三回)』（もぐら通信第147号）で図解して解説しましたので、興味のある方はご覧ください。

相場が読めるやうになつて以来、また二種類の詐欺的方程式を思ひ出すと、なるほど株価は嘘をつかないが、人間は嘘をつくののだといふことをよく理解したのです。株価は嘘をつかないが、投資会社や投資家に対する企業の説明は、いはば、見かけをよくしてゐるだけの虚栄心に満ちた、今流行りの言葉でいへば「盛つた」「マウント」した詐欺的な、将来の確定的な実現保証は何もないイイ振りコキだと思つてゐます。イイ振りコキといふのは北海道弁です。屁をコクのと同じで、イイ振りもコクのです。

さて、EAWAC白人種の強欲なる植民地主義の資本主義に対して如何に戦ふか。私は川端康成の講演の最後に引用した高名な日本の仏僧の智慧にならつて、一面一面計二面を対立する両面と考へるEAWACに対しては、言葉の意味は二重であるといつて、大乘仏典のうちの『金剛般若経』にある次の論理、さう、インド人の古代からの宗教的論理をぶつけて対抗するのが良いと考へます。私たちは宗教とふ高度な文明の水準でインド人と話がで

き、意思疎通ができるのです。これはEAWACには無理なことです。これは別途論じてある『日本一極国家論』に於いて、世界戦略の四角錐の底辺の四辺形の一角をインド帝国と組むための判断の目安となるでせう。これだけの文明国家と日本帝国は組むべきなのです。日の本・唐・天竺の内の天竺です。そして、唐とは組んではならない。

「(略) 世尊 [釈迦のこと] は、次のことを長老スプーティに答えられた。

「スプーティよ、この法門の名は『知恵の完成』(般若波密多)である。そのやうに、これを受持するがよい。それはなぜか、スプーティよ、如来によつて説かれた『知恵の完成』は、すなはち完成ではないと、如来は説かれるからである。だから、『知恵の完成』と言はれる。」(中央公論社『世界 名著大乘仏典』79ページ上段)

この釈迦による仏教の論理学の論理は、古代ギリシャの哲学者アリストテレスの論理学で説明し理解することができるのです(私は出来ます)。そして、それを20世紀前半にヴィトゲンシュタインといふ哲学者が出て、釈迦の上記の論理と同じ論理を言語の問題と文字と数式と記号で解いてみせたのですが(ですからヴィトゲンシュタインの哲学はアリストテレスの論理学をその一部として吸収して一体としてゐる)、他文明の宗教と哲学を果たして、近代欧米諸国家がこれからどれだけあの混乱の中で理解できるかどうか、本当に自分達の近代文明、モダン・タイムスと呼んだ近世500年・近代400年がその起源を古代ギリシャに持つものであるのかどうか、ヴィトゲンシュタインの理解できた釈迦の此の論理的な事実がヨーロッパの政治家の頭の上に降りて来て、経済人の頭の上に降りて来て、頭に染み込んで実際の政治的・経済的判断をすることがどれだけ時間でできるやうになるものか、さうして自分達のモダン・タイムスと呼ぶ歴史が偽の捏造された歴史ではないと、他文明に対して証明できるかどうか、さうしてキリスト教といふ宗教を再認識し、同時にユダヤ教を認めることができるかどうか、テロが収まるほどに深くイスラム教を認めることができるかどうか、私たちは彼らのいふ極東から眺めることに努めませう。そこに至るために、一体あとどれだけ時間を彼らは必要とするものか。

先の戦争の失敗で私たちの得た教訓は、大陸の問題に対しては、海洋国家日本としては関はらぬことこそよけれ。中国や朝鮮半島二国から支援を要求されても二度と応じないことこそ賢明也とふ教訓です。海洋国家としてのインド帝国とならば、私たちは仏教を介して上記のやうに理解しあふことができるでせう。この宗教的な論理学の水準の意思疎通は、逆批判理論の普及の礎石たり得ると私は思ひます。文化・思想戦略と呼んでも良い。何故ならば、

論理の正しさとは、正しさではなく、それ故に正しさと呼ばれるからであり、政治的論理の正しさとは正しさではなく、それ故に政治的論理の正しさと呼ばれるからです。

お釈迦様ならば、そして今アメリカの世にワシントンとニューヨークのウォール街に現れて説法をしたならば、このやうに語ることでせう。しかし、私たちの超越論の論理でもある肯定でもなく否定でもないといふ仏教の、禪の論理の第三項の道を説いて、アメリカ人

の大衆が理解できるものかどうか。私は、できないと思ふ。ポール・ド・マンといふベルギー人にアメリカの知識人たちがdeconstruction・脱構築を学んでも、大衆化するまでにどれだけの時間がかかるものか。私たちが古事記と日本書紀を脱構築して縄文思想を発見したやうに（これは縄文哲学が遅くとも1万6000年前に既にジャック・デリダの論理を知つてゐたからで、順序は逆なのです。ポスト・モダンなどと怠惰な名前をつけてゐる輩にデリダは理解が出来ない）、アメリカ人が独立宣言を脱構築できるかどうか（私はできないと思ふ、何故ならば独立宣言はイデオロギーだから）、超越論の大衆化はその後の出来事です。時間がかかり過ぎる。とすれば、その間未来の予測は不可能であるといふ人間の宿命を承知の上で、私たちは過去に学び、今とこれからに向かつて一体何をどう考へて何をどうなすべきであるか。

「この世は無常とは決して仏説といふ様なものではあるまい。それは何時如何なる時代でも、人間の置かれる一種の動物的状态である。現代人には、鎌倉時代の何処かのなま女房ほどにも、無常といふ事がわかつてゐない。常なるものを見失つたからである。」

キーンさんは、私たちが見失ふことのない日本人の美学の性質を分類して、次の四つを一次分類としてゐます。

- (1) 暗示：Suggestion
- (2) 不均整：Irregularity
- (3) 簡素：Simplicity
- (4) 無常：Perishability

最後に蛇足のやうにして、大英帝国遊學中に夏目漱石の経験して私たちのために残した次の二つの逸話を残して終わりにしたい。キーンさんの同著同章最後の箇所からの引用です。

「そして、文豪夏目漱石は二十世紀初め欧州に滞在したときに、西欧人の自然の変化に対する無関心に驚いてゐる。彼は次のやうに述べてゐる。

嘗て彼地（かのち）にありし頃雪見に人を誘ひて笑を招きし事あり。月は憐れ深きものと説いて驚かれたる折もあり。

またスコットランドの館に招かれたときは、

ある日主人と栗園を散歩して、樹間の経路悉く苔蒸せるを看（み）て、よき具合に時代が着きて結構なりと賞めたるに、主人は近きうちに園丁に申し付けて此苔を悉く掻き払ふ積（つもり）なりと答へたるを記憶す。（『文学論』）

私たちがかくある民族ならば、sustainabilityなどに盲目的に乗せられては、我が身を滅ぼして本当にperishabilityと同じ結果になると愚考致します。如何か。